



藤田 晃 己 議員

### 問 町長 続投への決意は

### 答 3期目をめざし全身全霊を捧げる

**Q** 牧野町政は過去7年余り、新町の一体化をはじめ「財政改革なくして新町の発展はない」との強い信念のもと、数々の施策に取り組み、着実に成果が表れている。未来創造計画を初め、神石高原町が生き残るための諸施策実現に対し、志なればであり、引き続き取り組む責務があると思うが、町長の決意は。

**A** 町長  
首長の任期は1期、2期ではあまり目立った仕事はできない。4期目以後は多選だと批判が出ると思われる。

**Q** それならどこが適正なのか、自問自答する中で年も重ねてきたが、今のところ元気なので私の心境は、「不信不立」、信無くば立たずとの言葉があるが「信あれば立つ」の思いである。議員、町民の皆さんのご理解ご協力を賜る中で、3期目をめざして全身全霊を捧げ頑張る決意である。

**Q** 町長として今日までの政策に対する成果の現状認識をどのように捉えているのか。

**A** 町長  
発足以来、財政改革なくして新町の発展はないと言い切ってきた。4カ町村がひとつになったのだから「信頼と合意の理念」を掲げ一体化を進めてきた。財政改革においてはそれなりの成果が上がっていると思う。行財政改革は目的ではなく手段であり目的は、「人と自然が輝く高原の町」であり、それに

向けての取り組みは道なかばである。日本全体でも人口が減少する中でこれからの課題は、人口減少にブレーキをかけることだ。

**Q** 今後の町政運営の課題に向けての具体的政策はどのように予算に反映させているのか。

**A** 町長  
重要課題として4点、①「雇用の創出」②「農業の6次産業化の推進」③「バイオマス構想の推進」④「教育環境整備の充実」に取り組む。具体的には、若者の定住対策やそのための企業誘致などを念頭に取り組みたい。



着々と建物建築が進む井関定住団地

### 問 新年度予算への「こだわり」は

### 答 「創造」実現が「こだわり」だ



村上 克朗 議員

**Q** 予算大綱には、「①雇用の創出②農業の第6次産業化推進③バイオマス構想の推進④教育環境整備の充実」の4点を最重要課題として取り組む」とある。地域資源を活かし将来を見据えての計画に対しては、トップの強い気持ちは生命線であるが、「こだわり」は何か。

**A** 町長  
今日まで町の一体化に向けて「信頼と合意」「創造と改革」を掲げて行財政改革に取り組み、一応のめどが立った。これからは、「創造」を実現させたいというのが、私の「こだわり」だ。

**Q** 企業育成の「工場等設置奨励条例」の基準を変更して、企業ニーズを的確に捉えた魅力的な産業立地環境を整備することが重要だ。地域が積極的に取り組む活動に対し、効果的に支援を行うべきでは。

**A** 町長  
大型企業の誘致は難しく、条例の改正を行ってでも地場産業の育成に目を向け、行政が先頭に立って指導するという考え方は私も共有する。

**Q** 農・商・工連携、産・官・学連携で地域産業の活性化を図る「神石高原第6次産業人材創生プロジェクト」の立ち上げが必要である。広島6次産業化サポーターセンターの活用は。



四仙人参上 (豊松ストア前)

**Q** 意欲のある農業者・団体での農産物や加工品の意見交換など、国や県の推進する「6次産業化プランナー」の研修体制を確立する。

**Q** 県の「中山間地域観光振興推進事業」活用の「帝釈峡観光振興」の具体策は。

**A** 町長  
帝釈峡と周辺の資源を活かした、体験・交流・滞在型の観光地づくりを平成24年から平成28年までに整備・実施する。

**Q** まちづくり推進課長平成25年までに来訪者の動向調査を実施。新規連絡船の運航や遊歩道への徒歩以外の交通手段導入など、帝釈峡の再生に向けて取り組む。

# あなたの声を町政に

総括質問時間は、一人30分一問一答方式で行いました

### 帝釈峡観光振興策は

### 農商工連携で地域活性化を